

# 2018年度 クラブ経営情報開示資料

2019年7月23日

公益社団法人日本プロサッカーリーグ  
クラブ経営本部  
クラブライセンス事務局

# 1 - 1. 昨年との変更点



## (1) 決算期の変更

3月決算クラブに湘南が加わり、柏・YS横浜・湘南・磐田の4クラブとなった。  
2018年度の湘南の数値は、決算期変更に伴い、2018年2月～2019年3月の計14ヵ月間の数値となっている。

## (2) 「広告料収入」を「スポンサー収入」へと開示名称変更

現状、広告料収入科目に含まれている売上形態を踏まえ、必ずしも純粋な広告対価としての収入ではない事例もあるため、より実態に近づけた表現とする。

## (3) クラブに関連する法人にて計上されているアカデミー関連収入の開示

現状、半数程度のクラブに関連する法人が存在しており、サッカービジネスに関わる事業（アカデミー、スクール等）を持つ法人の営業収益について、別紙のクラブ決算一覧にて開示を行う。

## (4) 本資料のJリーグHP上での開示

ファン・サポーターをはじめとする多くのステークホルダーへも可能な範囲で情報提供を拡充するため、本資料はJリーグ.jpでも開示する。

※2019年5月発表時と同様の情報については、「再掲」と表示しています。

## 1 - 2. 主なトピックス



(1) J1・J2・J3合計の事業規模は、**1,200億円を突破（成長率約113.7%）**

(2) 前年と比較し、営業収益が**過去最高増加額である約151億円の増加**  
(2011年度以降、8年連続増加)

同時に営業費用も約141億円増加し、**拡大均衡で推移**

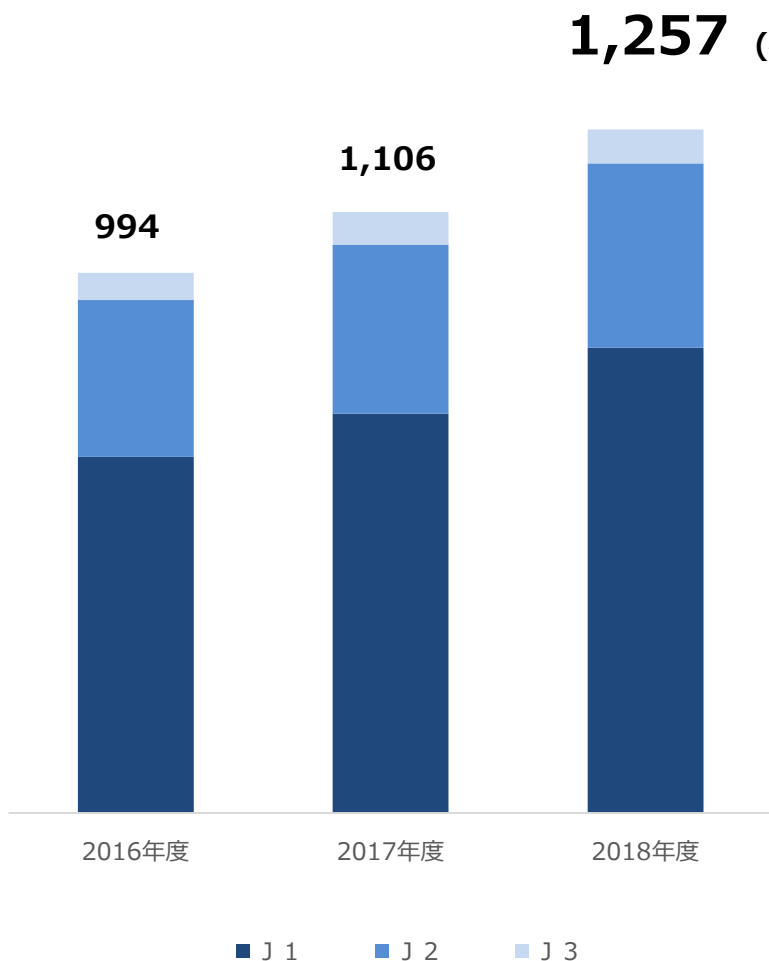
**再掲** (3) 中でも、**ヴィッセル神戸はJリーグ史上最高営業収益96.6億円**を計上  
※これまでの最高額は、浦和レッズ2017年度79.7億円

(4) 39クラブが前年より営業収益を伸ばしており、  
その内、**17クラブが高い成長率（平均以上）**を計上した

**再掲** (5) 増加した営業収益の投下先は、**チーム人件費に最も投下**されている  
販売費および一般管理費も相対的に高い投下比率となった

**再掲** (6) J1・J2・J3全てのクラブでの3期連続赤字、債務超過ゼロが2015年度から続いて  
いたが、FC琉球に**3期連続赤字が発生（※ただし、財務基準には抵触しない）**

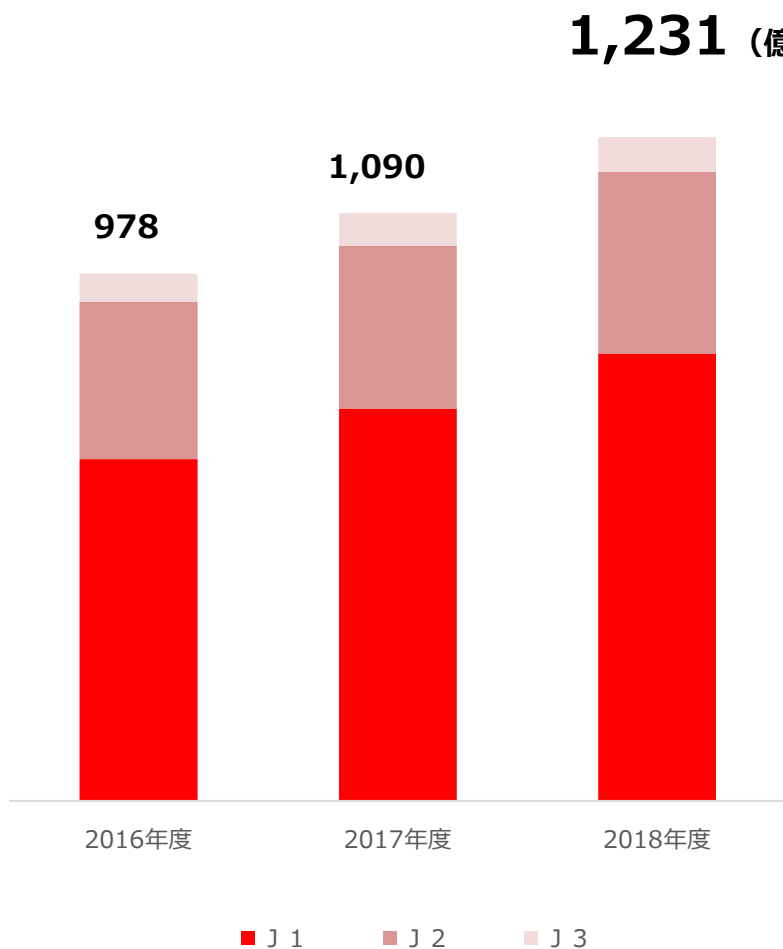
# 1 - 3. 営業収益合計



8年連続の増収により、  
営業収益合計は  
**1,200億円**を突破

成長率も**113.7%**と高い比率

# 1 - 4. 営業費用合計



営業費用合計も  
**1,200億円**を超える

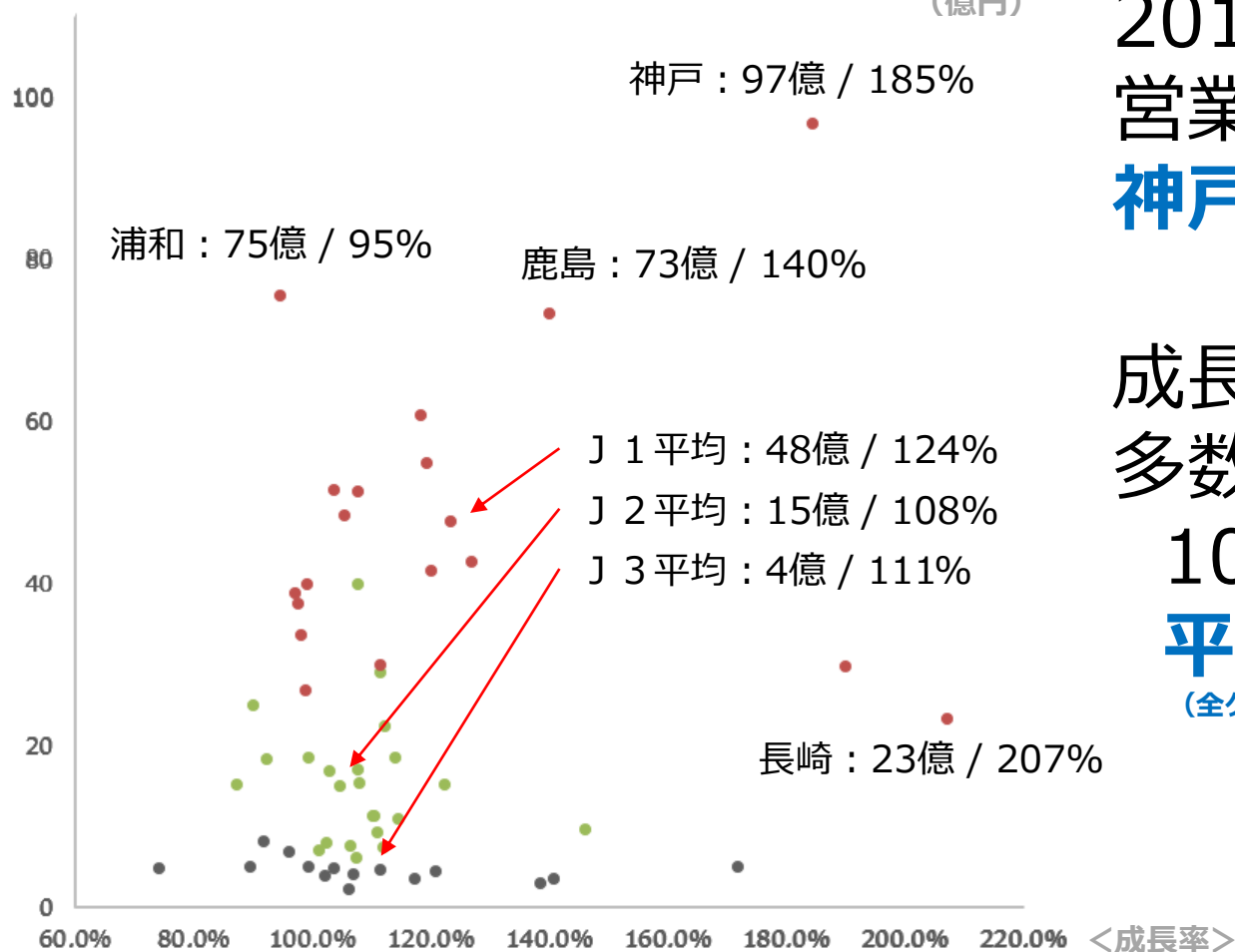
**拡大均衡**にて推移

# 1 - 5. 営業収益・成長率分布



<営業収益>

(億円)



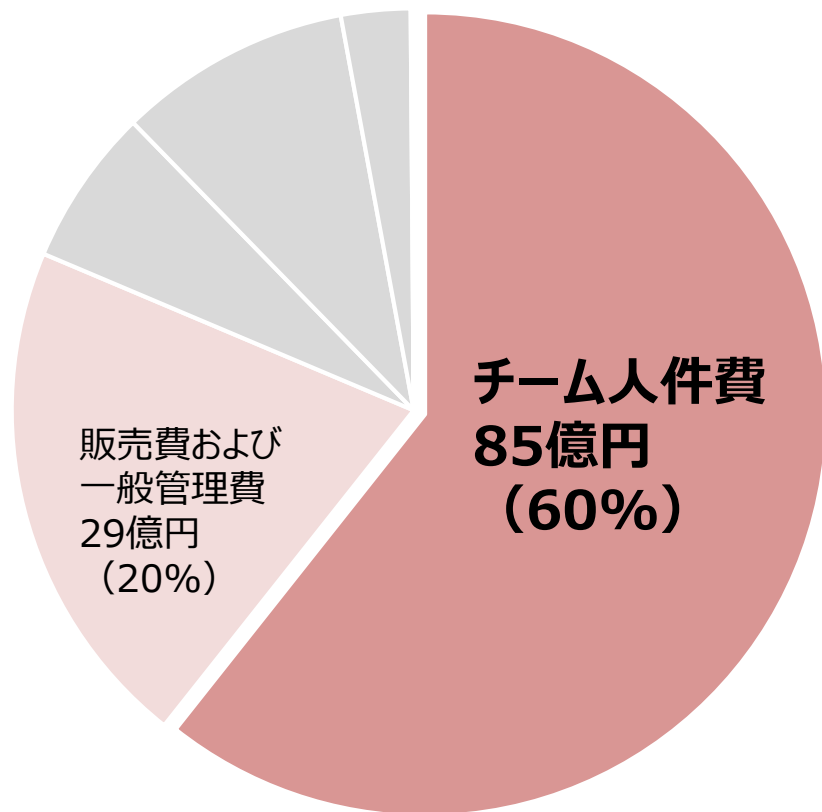
2018年度単年で見ると  
営業収益・成長率ともに  
**神戸が突出**している

成長率の高いクラブも  
多数あった

100%以上39クラブ  
**平均値以上17クラブ**

(全クラブ平均113.7%)

## 1 - 6. 営業費用増加額の投下割合



増加した営業費用の投下先は、  
**チーム人件費が突出**している

主にフロントの経費である  
**販管費も高い比率**であった

# 1 - 7. 3期連続赤字・債務超過クラブ (J1・J2・J3)



- **F C 琉球に3期連続赤字が発生**
- 多くのクラブが積極的な投資を行ったことにより、赤字クラブは4クラブ増加
- 2期以上連続赤字クラブは4クラブとなった

## 【2018年度のJ1・J2・J3クラブの財務状況】

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	該当クラブ (2018年度)
単年度赤字	17	13	7	13	14	18	札幌、仙台、清水、広島、 鳥栖、町田、新潟※、山口※、 福島、群馬、YS横浜※、 相模原、長野、富山、沼津、 北九州、鹿児島、琉球※
3期連続赤字	5	1	0	0	0	1	琉球
債務超過	12	2	0	0	0	0	なし

【注】2013年度のクラブ数は、新入会クラブの所属リーグにおける財務数値を基準としている

※新潟、山口、YS横浜は2期連続赤字  
 ※琉球は3期連続赤字  
 (財務基準には抵触しない)



# Appendix

# 2-1. 決算数値の概要： J1・J2・J3クラブ合計



- J1・J2・J3合計で、前年と比較すると営業収益+151億円、営業費用+141億円であり、拡大均衡となっている
- 当期純利益は、前年並みの10億円黒字となっている

(百万円)

	J1合計			J2合計			J3合計			J1+J2+J3合計			
	2017年度 (18クラブ)	2018年度 (18クラブ)	前年比	2017年度 (22クラブ)	2018年度 (22クラブ)	前年比	2017年度 (14クラブ)	2018年度 (14クラブ)	前年比	2017年度 (54クラブ)	2018年度 (54クラブ)	前年比	
1 営業収益	73,479	85,597	+12,118	31,079	33,893	+2,814	6,004	6,218	+214	110,562	125,708	+15,146	★
2 スponsor収入	32,635	38,335	+5,700	15,709	17,817	+2,108	3,210	3,380	+170	51,554	59,532	+7,978	
3 入場料収入	14,473	14,474	+1	4,401	4,368	▲33	445	409	▲36	19,319	19,251	▲68	
4 Jリーグ配分金	8,533	8,759	+226	3,263	3,692	+429	478	487	+9	12,274	12,938	+664	
5 アカデミー関連収入	2,878	2,872	▲6	1,430	1,693	+263	576	548	▲28	4,884	5,113	+229	
6 物販収入	6,183	7,590	+1,407	2,112	2,016	▲96	314	299	▲15	8,609	9,905	+1,296	
7 その他収入	8,777	13,567	+4,790	4,162	4,308	+146	981	1,095	+114	13,920	18,970	+5,050	★
8 営業費用	72,780	83,006	+10,226	30,184	33,662	+3,478	6,063	6,445	+382	109,027	123,113	+14,086	
9 チーム人件費	34,458	40,944	+6,486	13,278	14,975	+1,697	1,950	2,313	+363	49,686	58,232	+8,546	★
10 試合関連経費	6,253	5,915	▲338	2,177	2,566	+389	509	430	▲79	8,939	8,911	▲28	
11 トップチーム運営経費	6,085	6,655	+570	3,393	4,080	+687	845	911	+66	10,323	11,646	+1,323	
12 アカデミー運営経費	2,156	2,440	+284	1,164	1,284	+120	328	317	▲11	3,648	4,041	+393	
13 女子チーム運営経費	229	202	▲27	139	214	+75	44	41	▲3	412	457	+45	
14 物販関連費	4,435	5,359	+924	1,419	1,393	▲26	198	192	▲6	6,052	6,944	+892	
15 販売費および一般管理費	19,164	21,491	+2,327	8,615	9,152	+537	2,189	2,242	+53	29,968	32,885	+2,917	
16 営業利益	700	2,591	+1,891	895	231	▲664	▲60	▲227	▲167	1,535	2,595	+1,060	
17 営業外収益	438	374	▲64	139	265	+126	50	42	▲8	627	681	+54	
18 営業外費用	139	998	+859	122	82	▲40	21	39	+18	282	1,119	+837	
19 経常利益	999	1,967	+968	911	414	▲497	▲30	▲224	▲194	1,880	2,157	+277	
20 特別利益	317	330	+13	2	0	▲2	24	25	+1	343	355	+12	
21 特別損失	112	48	▲64	38	99	+61	19	3	▲16	169	150	▲19	
22 税引前当期利益	1,204	2,249	+1,045	876	315	▲561	▲24	▲202	▲178	2,056	2,362	+306	
23 法人税および住民税	551	1,185	+634	263	112	▲151	8	10	+2	822	1,307	+486	
24 当期純利益(損失)	653	1,064	+411	615	203	▲412	▲33	▲212	▲179	1,235	1,055	▲180	★

※数値は、各クラブの百万円単位の金額を単純合計したものであり、端数処理の関係で、合計数値が一部一致しないところがある。

※賞金は、Jリーグ配分金ではなくその他収入に含まれている。

## 2-2. 決算数値の概要： J1・J2・J3クラブ平均



- ・ 上位と下位のリーグ間の営業収益にはそれぞれ3倍以上の差があり、前年よりその差は広がっている
- ・ リーグ間の構成比を比較すると、どのリーグでもスポンサー収入の比率は高いが、上位リーグほど入場料収入比率が高い。チーム人件費比率も上位リーグの方が高くなっている

(百万円)

	J1平均					J2平均					J3平均					J1+J2+J3平均		
	2017年度 (18クラブ)	構成比	2018年度 (18クラブ)	前年比	構成比	2017年度 (22クラブ)	構成比	2018年度 (22クラブ)	前年比	構成比	2017年度 (14クラブ)	構成比	2018年度 (14クラブ)	前年比	構成比	2017年度 (54クラブ)	2018年度 (54クラブ)	前年比
1 営業収益	4,082	100%	4,755	+673	100%	1,413	100%	1,541	+128	100%	429	100%	444	+15	100%	2,047	2,328	+280
2 スポンサー収入	1,813	45%	2,130	+317	45%	714	51%	810	+96	52%	229	54%	241	+12	54%	955	1,102	+148
3 入場料収入	804	20%	804	+0	17%	200	14%	199	▲2	13%	32	7%	29	▲3	7%	358	357	▲1
4 Jリーグ配分金	474	12%	487	+13	10%	148	10%	168	+20	11%	34	8%	35	+1	8%	227	240	+12
5 アカデミー関連収入	160	3%	160	▲0	3%	65	4%	77	+12	5%	41	9%	39	▲2	9%	90	95	+4
6 物販収入	344	8%	422	+78	9%	96	7%	92	▲4	6%	22	5%	21	▲1	5%	159	183	+24
7 その他収入	488	12%	754	+266	16%	189	14%	196	+7	13%	70	17%	78	+8	17%	258	351	+94
8 営業費用	4,043	100%	4,611	+568	100%	1,372	100%	1,530	+158	100%	433	100%	460	+27	100%	2,019	2,280	+261
9 チーム人件費	1,914	48%	2,275	+360	50%	604	44%	681	+77	44%	139	32%	165	+26	36%	920	1,078	+158
10 試合関連経費	347	8%	329	▲19	7%	99	8%	117	+18	8%	36	9%	31	▲6	7%	166	165	▲1
11 トップチーム運営経費	338	8%	370	+32	8%	154	11%	185	+31	12%	60	14%	65	+5	14%	191	216	+25
12 アカデミー運営経費	120	3%	136	+16	3%	53	4%	58	+5	4%	23	5%	23	▲1	5%	68	75	+7
13 女子チーム運営経費	13	0%	11	▲2	0%	6	0%	10	+3	1%	3	1%	3	▲0	0%	8	8	+1
14 物販関連経費	246	6%	298	+51	6%	65	4%	63	▲1	4%	14	3%	14	▲0	3%	112	129	+17
15 販売費および一般管理費	1,065	27%	1,194	+129	26%	392	29%	416	+24	27%	156	36%	160	+4	35%	555	609	+54
16 営業利益	39	-	144	+105	-	41	-	11	▲30	-	▲4	-	▲16	▲12	-	28	48	+20
17 営業外収益	24	-	21	▲4	-	6	-	12	+6	-	4	-	3	▲1	-	12	13	+1
18 営業外費用	8	-	55	+48	-	6	-	4	▲2	-	2	-	3	+1	-	5	21	+16
19 経常利益	56	-	109	+54	-	41	-	19	▲23	-	▲2	-	▲16	▲14	-	35	40	+5
20 特別利益	18	-	18	+1	-	0	-	0	▲0	-	2	-	2	+0	-	6	7	+0
21 特別損失	6	-	3	▲4	-	2	-	5	+3	-	1	-	0	▲1	-	3	3	▲0
22 税引前当期利益	67	-	125	+58	-	40	-	14	▲26	-	▲2	-	▲14	▲13	-	38	44	+6
23 法人税および住民税	31	-	66	+35	-	12	-	5	▲7	-	1	-	1	+0	-	15	24	+9
24 当期純利益(損失)	36	-	59	+23	-	28	-	9	▲19	-	▲2	-	▲15	▲13	-	23	20	▲3

※数値は、各クラブの百万円単位の金額を単純合計したものであり、端数処理の関係で、合計数値および前年比が一部一致しないところがある。

※賞金は、Jリーグ配分金ではなくその他収入に含まれている。

## 2-3. 決算数値の概要：成長率比較



- 全体の営業収益成長率は113.7%となったが、スポンサー収入の増加が大きく貢献している

【J1・J2・J3合計】

(百万円)

	2016年度	2017年度	2017年度		2018年度	2018年度		
			前年比	成長率		前年比	成長率	
営業収益	99,395	110,562	+11,167	111.2%	125,708	+15,146	113.7%	★
内スポンサー収入	48,332	51,554	+3,222	106.7%	59,532	+7,978	115.5%	★
内入場料収入	18,341	19,319	+978	105.3%	19,251	▲68	99.6%	
内Jリーグ配分金	6,225	12,274	+6,049	197.2%	12,938	+664	105.4%	
営業収益 (除くJリーグ配分金)	93,170	98,288	+5,118	105.5%	112,770	+14,482	114.7%	

## 2-4. 営業収益（売上高）の推移

- ・ 2018-2017年度比較（54クラブ） 増収39クラブ、減収15クラブ
- ・ J 1クラブがリーグ全体の成長を強くけん引している

【2018年在籍 J 1クラブ】

(百万円)

	2016年度	2017年度	2018年度	前年比
1 神戸	3,865	5,237	9,666	+4,429
2 浦和	6,606	7,971	7,549	▲422
3 鹿島	5,582	5,228	7,330	+2,102
4 川崎F	4,254	5,123	6,074	+951
5 名古屋	4,713	4,594	5,491	+897
6 G大阪	5,146	4,966	5,159	+193
7 横浜FM	4,696	4,765	5,138	+373
8 FC東京	4,541	4,588	4,844	+256
9 鳥栖	2,766	3,350	4,257	+907
10 柏	2,874	3,454	4,150	+696
11 清水	3,341	4,010	3,983	▲27
12 C大阪	3,008	3,976	3,871	▲105
13 磐田	3,303	3,828	3,745	▲83
14 広島	3,794	3,424	3,367	▲57
15 札幌	1,902	2,676	2,988	+312
16 湘南	1,627	1,566	2,978	+1,412
17 仙台	2,285	2,709	2,684	▲25
18 長崎	749	1,120	2,323	+1,203
合計	65,052	72,585	85,597	+13,012

【2018年在籍 J 2クラブ】

(百万円)

	2016年度	2017年度	2018年度	前年比
1 大宮	3,203	3,685	3,972	+287
2 千葉	2,556	2,593	2,893	+300
3 新潟	2,908	2,762	2,493	▲269
4 松本	1,935	1,991	2,239	+248
5 東京V	1,391	1,622	1,852	+230
6 京都	1,743	1,857	1,848	▲9
7 福岡	1,836	1,979	1,831	▲148
8 山形	1,497	1,576	1,698	+122
9 徳島	1,443	1,639	1,688	+49
10 横浜FC	1,064	1,244	1,522	+278
11 甲府	1,523	1,727	1,511	▲216
12 岡山	1,271	1,433	1,502	+69
13 大分	797	1,023	1,128	+105
14 山口	880	1,019	1,126	+107
15 岐阜	932	951	1,090	+139
16 栃木	639	658	962	+304
17 熊本	720	840	933	+93
18 愛媛	630	769	789	+20
19 町田	626	709	755	+46
20 金沢	612	656	736	+80
21 讃岐	613	696	704	+8
22 水戸	589	578	621	+43
合計	29,408	32,007	33,893	+1,886

【2018年在籍 J 3クラブ】

(百万円)

	2016年度	2017年度	2018年度	前年比
1 北九州	855	864	794	▲70
2 長野	687	702	675	▲27
3 鹿児島	377	496	493	▲3
4 岩手	142	281	483	+202
5 富山	515	539	482	▲57
6 鳥取	412	458	475	+17
7 群馬	522	624	462	▲162
8 秋田	288	360	435	+75
9 沼津	-	361	386	+25
10 福島	326	359	367	+8
11 琉球	194	241	339	+98
12 相模原	263	282	331	+49
13 藤枝	165	210	291	+81
14 Y S横浜	189	193	205	+12
合計	4,935	5,970	6,218	+248

総合計	99,395	110,562	125,708	+15,146
-----	--------	---------	---------	---------

- ※ J 1・J 2・J 3の所属は、2018シーズンのもので、【凡例】  : J 1所属  : J 2所属  : J 3所属
- ※ J 3合計および総合計には八戸は含まれていない。
- ※ 百万円未満の増加・減少は、増減クラブ数にカウントしていない。
- ※ 2018年度の湘南の数値は、決算期変更に伴い、2018年2月～2019年3月の計14ヵ月間の数値となっている。

## 2-5. スポンサー収入の推移



- ・ 2018-2017年度比較（54クラブ） 増収44クラブ、減収10クラブ
- ・ 前年比+80億円の増加

【2018年在籍 J 1 クラブ】

(百万円)

	2016年度	2017年度	2018年度	前年比
1 神戸	2,221	3,352	6,208	+2,856
2 名古屋	3,088	2,856	3,345	+489
3 浦和	2,593	3,193	3,226	+33
4 鳥栖	1,631	1,574	2,296	+722
5 鹿島	1,958	1,917	2,156	+239
6 横浜 F M	2,366	2,111	2,033	▲78
7 F C 東京	1,935	1,717	1,988	+271
8 柏	1,929	1,954	1,968	+14
9 磐田	1,569	1,812	1,869	+57
10 G 大阪	1,817	1,800	1,845	+45
11 C 大阪	1,738	1,600	1,786	+186
12 清水	1,767	1,797	1,757	▲40
13 広島	1,620	1,546	1,530	▲16
14 川崎 F	1,809	1,854	1,478	▲376
15 札幌	882	1,070	1,306	+236
16 湘南	681	795	1,224	+429
17 長崎	359	539	1,183	+644
18 仙台	908	1,183	1,137	▲46
合計	30,871	32,670	38,335	+5,665

【2018年在籍 J 2 クラブ】

(百万円)

	2016年度	2017年度	2018年度	前年比
1 大宮	2,077	2,296	2,611	+315
2 千葉	1,659	1,704	1,994	+290
3 京都	1,122	1,129	1,243	+114
4 新潟	1,049	1,085	1,127	+42
5 徳島	991	1,103	1,098	▲5
6 松本	889	953	991	+38
7 福岡	618	621	990	+369
8 横浜 F C	569	698	924	+226
9 東京 V	667	779	847	+68
10 岡山	564	703	763	+60
11 甲府	736	774	760	▲14
12 岐阜	522	474	557	+83
13 栃木	409	408	525	+117
14 山口	340	439	506	+67
15 大分	404	443	486	+43
16 山形	426	429	469	+40
17 熊本	319	351	431	+80
18 町田	299	343	370	+27
19 金沢	319	294	328	+34
20 愛媛	280	302	324	+22
21 讃岐	262	292	268	▲24
22 水戸	199	195	205	+10
合計	14,720	15,815	17,817	+2,002

【2018年在籍 J 3 クラブ】

(百万円)

	2016年度	2017年度	2018年度	前年比
1 長野	402	407	417	+10
2 北九州	384	384	394	+10
3 鹿児島	252	261	330	+69
4 富山	365	372	321	▲51
5 秋田	184	198	255	+57
6 福島	230	237	246	+9
7 鳥取	213	233	245	+12
8 群馬	266	267	228	▲39
9 藤枝	121	144	228	+84
10 相模原	177	181	212	+31
11 沼津	-	166	186	+20
12 琉球	39	65	156	+91
13 岩手	73	116	118	+2
14 Y S 横浜	35	38	44	+6
合計	2,741	3,069	3,380	+311

総合計	48,332	51,554	59,532	+7,978
-----	--------	--------	--------	--------

- ※ J 1・J 2・J 3の所属は、2018シーズンのものである。【凡例】   : J 1 所属   : J 2 所属   : J 3 所属
- ※ J 3 合計および総合計には八戸は含まれていない。
- ※ 百万円未満の増加・減少は、増減クラブ数にカウントしていない。
- ※ 2018年度の湘南の数値は、決算期変更に伴い、2018年2月～2019年3月の計14ヵ月間の数値となっている。

## 2-6. 入場料収入の推移



- ・ 2018-2017年度比較（54クラブ） 増収25クラブ、減収27クラブ
- ・ 前年比▲68百万円の微減

【2018年在籍 J 1クラブ】

(百万円)

	2016年度	2017年度	2018年度	前年比
1 浦和	2,375	2,337	1,923	▲414
2 G大阪	1,390	1,266	1,152	▲114
3 横浜FM	1,005	1,018	1,127	+109
4 鹿島	869	894	978	+84
5 川崎F	907	1,038	975	▲63
6 FC東京	961	1,026	947	▲79
7 名古屋	761	824	936	+112
8 神戸	427	514	840	+326
9 鳥栖	553	631	678	+47
10 磐田	474	615	638	+23
11 札幌	457	622	636	+14
12 C大阪	510	839	618	▲221
13 仙台	608	619	608	▲11
14 清水	494	625	582	▲43
15 広島	563	496	500	+4
16 湘南	331	240	480	+240
17 柏	435	554	449	▲105
18 長崎	74	115	407	+292
合計	13,194	14,273	14,474	+201

【2018年在籍 J 2クラブ】

(百万円)

	2016年度	2017年度	2018年度	前年比
1 新潟	679	629	507	▲122
2 松本	528	494	503	+9
3 大宮	398	397	339	▲58
4 千葉	333	337	332	▲5
5 甲府	342	353	297	▲56
6 大分	157	250	254	+4
7 山口	220	204	212	+8
8 東京V	164	186	178	▲8
9 山形	182	172	178	+6
10 岡山	200	190	176	▲14
11 福岡	275	190	174	▲16
12 京都	200	205	173	▲32
13 横浜FC	150	171	167	▲4
14 徳島	125	136	135	▲1
15 岐阜	128	111	131	+20
16 栃木	66	59	115	+56
17 町田	92	94	108	+14
18 熊本	135	111	106	▲5
19 水戸	86	83	84	+1
20 讃岐	107	87	74	▲13
21 金沢	70	60	69	+9
22 愛媛	78	74	56	▲18
合計	4,715	4,593	4,368	▲225

【2018年在籍 J 3クラブ】

(百万円)

	2016年度	2017年度	2018年度	前年比
1 北九州	80	124	107	▲17
2 長野	73	59	46	▲13
3 群馬	75	67	43	▲24
4 相模原	35	26	35	+9
5 鳥取	40	33	34	+1
6 富山	37	34	28	▲6
7 鹿児島	27	21	27	+6
8 秋田	12	16	20	+4
9 沼津	-	22	16	▲6
10 YS横浜	14	14	14	0
11 福島	12	12	12	0
12 琉球	10	5	10	+5
13 岩手	10	13	9	▲4
14 藤枝	7	7	8	+1
合計	432	453	409	▲44

総合計	18,341	19,319	19,251	▲68
-----	--------	--------	--------	-----

- ※ J 1・J 2・J 3の所属は、2018シーズンのものである。【凡例】   : J 1所属   : J 2所属   : J 3所属
- ※ J 3合計および総合計には八戸は含まれていない。
- ※ 百万円未満の増加・減少は、増減クラブ数にカウントしていない。
- ※ 2018年度の湘南の数値は、決算期変更に伴い、2018年2月～2019年3月の計14ヵ月間の数値となっている。

# 2-7. チーム人件費の推移



- ・ 2018-2017年度比較（54クラブ） 増加42クラブ、減少10クラブ
- ・ 前年比+85億円の増加

【2018年在籍 J 1クラブ】 (百万円)

	2016年度	2017年度	2018年度	前年比
1 神戸	2,068	3,104	4,477	+1,373
2 鹿島	1,929	2,382	3,157	+775
3 浦和	2,381	2,644	3,108	+464
4 名古屋	1,984	1,843	2,823	+980
5 柏	1,753	2,308	2,806	+498
6 鳥栖	1,476	1,899	2,670	+771
7 川崎F	1,643	2,339	2,614	+275
8 C大阪	1,494	2,334	2,334	0
9 横浜FM	1,966	2,118	2,301	+183
10 G大阪	1,900	2,212	2,193	▲19
11 FC東京	2,025	2,010	2,133	+123
12 広島	1,553	1,602	1,864	+262
13 清水	1,473	1,680	1,811	+131
14 磐田	1,378	1,553	1,721	+168
15 札幌	703	1,206	1,502	+296
16 湘南	798	774	1,384	+610
17 仙台	1,187	1,165	1,232	+67
18 長崎	322	494	814	+320
合計	28,033	33,667	40,944	+7,277

【2018年在籍 J 2クラブ】 (百万円)

	2016年度	2017年度	2018年度	前年比
1 大宮	1,411	1,792	1,915	+123
2 千葉	899	1,177	1,272	+95
3 松本	863	956	1,145	+189
4 新潟	1,220	1,227	1,108	▲119
5 徳島	731	814	952	+138
6 福岡	937	1,000	909	▲91
7 甲府	736	883	747	▲136
8 横浜FC	464	533	734	+201
9 東京V	436	572	733	+161
10 京都	965	852	692	▲160
11 岡山	568	638	638	0
12 山形	429	438	524	+86
13 大分	266	367	482	+115
14 山口	231	399	468	+69
15 熊本	315	354	400	+46
16 岐阜	419	316	365	+49
17 栃木	228	229	353	+124
18 愛媛	306	316	353	+37
19 金沢	296	309	331	+22
20 讃岐	287	345	301	▲44
21 町田	189	228	278	+50
22 水戸	262	261	275	+14
合計	12,458	14,006	14,975	+969

【2018年在籍 J 3クラブ】 (百万円)

	2016年度	2017年度	2018年度	前年比
1 長野	281	281	293	+12
2 北九州	343	308	287	▲21
3 岩手	87	87	268	+181
4 群馬	228	292	223	▲69
5 富山	191	200	195	▲5
6 鹿児島	119	138	179	+41
7 秋田	94	114	148	+34
8 福島	120	119	125	+6
9 藤枝	32	59	119	+60
10 沼津	-	100	118	+18
11 相模原	80	92	109	+17
12 鳥取	142	112	106	▲6
13 琉球	84	81	99	+18
14 YS横浜	17	30	44	+14
合計	1,818	2,013	2,313	+300

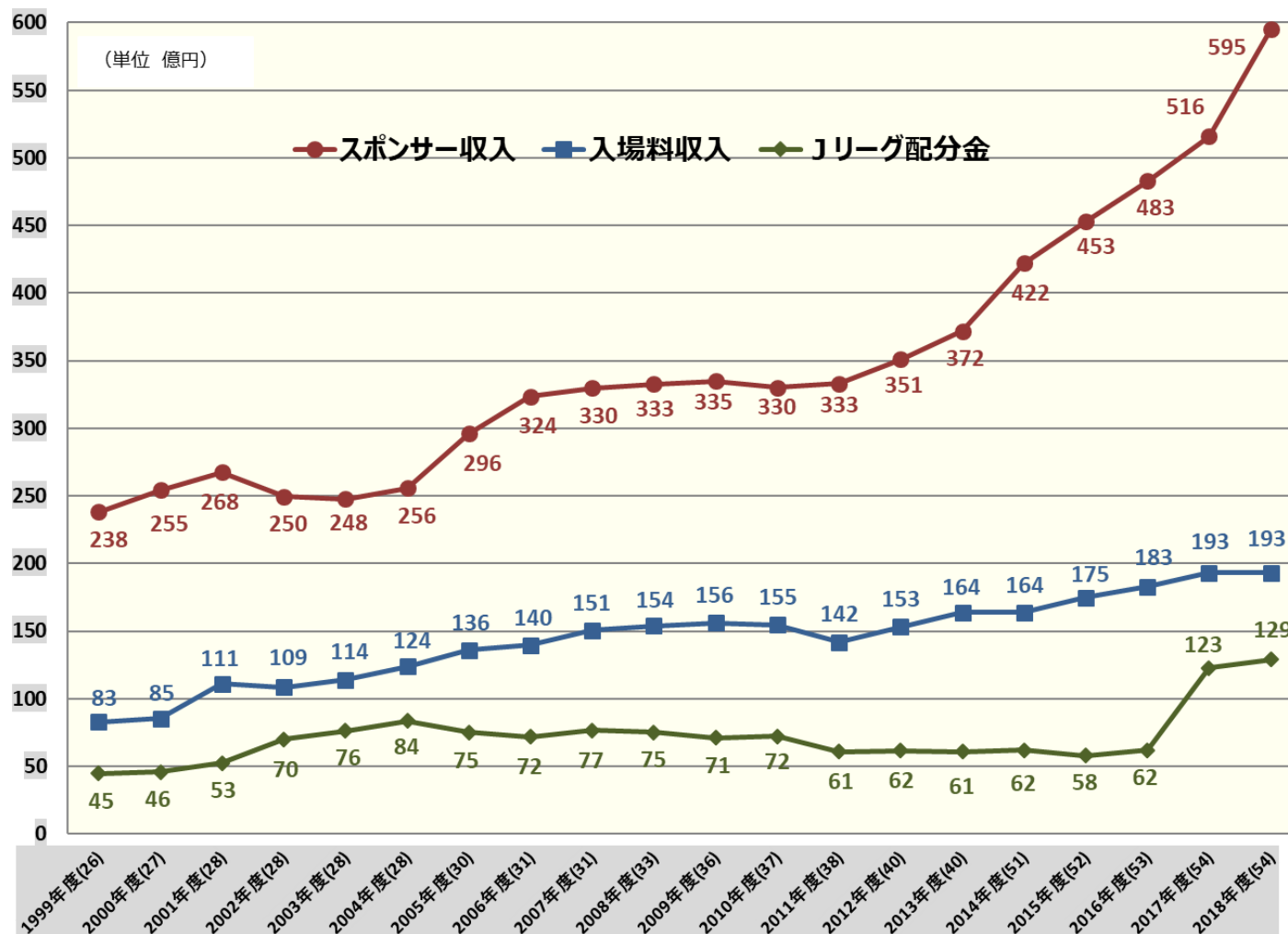
総合計 42,309 49,686 58,231 **+8,546**

- ※ J 1・J 2・J 3の所属は、2018シーズンのもので、【凡例】   : J 1所属   : J 2所属   : J 3所属
- ※ J 3合計および総合計には八戸は含まれていない。
- ※ 百万円未満の増加・減少は、増減クラブ数にカウントしていない。
- ※ 2018年度の湘南の数値は、決算期変更に伴い、2018年2月～2019年3月の計14ヵ月間の数値となっている。



## 2-8. 営業収益主要項目の推移

### ・ スポンサー収入が大きく増加となった



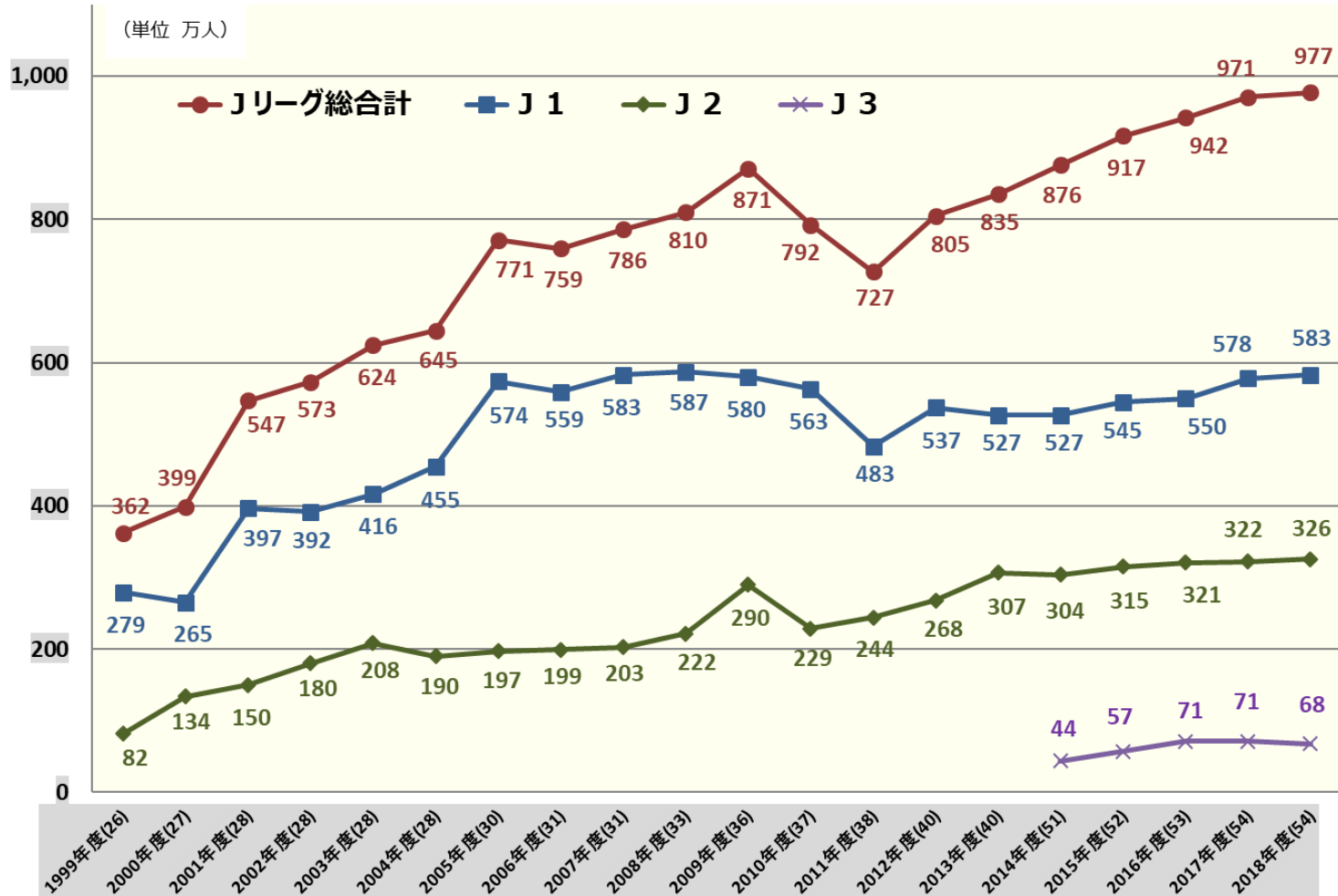
※2010年度以前のJリーグ配分金には、賞金が含まれている。

※2018年度Jリーグ決算発表における配分金の公表数値とは、Jリーグとクラブとの決算月のずれ等によって差異が生じている。

## 2-9. リーグ戦総入場者数の推移



・リーグ戦（J1・J2・J3）の総入場者数は 9,767,611人（前年比 +58,876人）

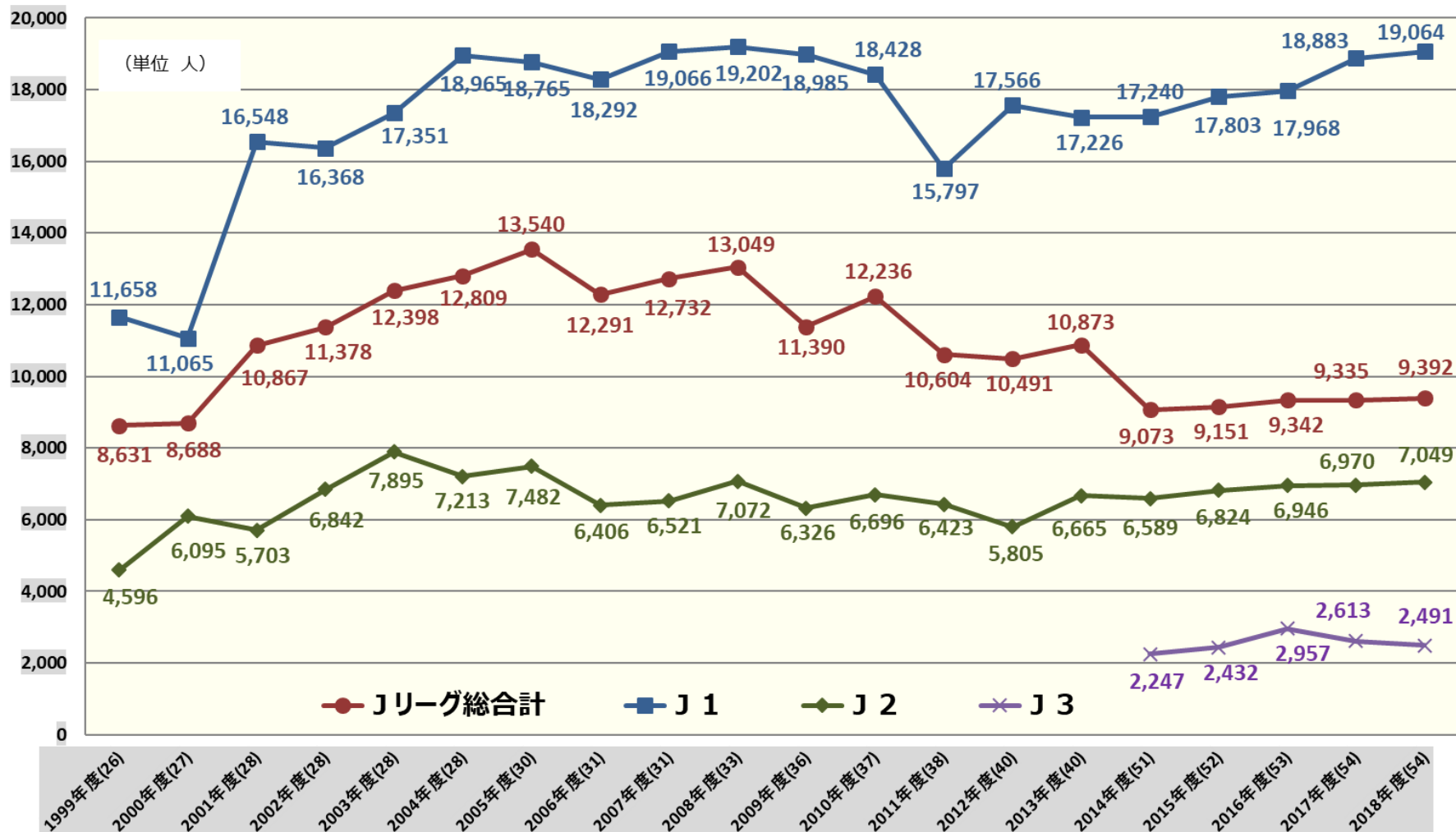


※なお、天皇杯を除く、リーグおよびクラブ主管公式試合（AFCチャンピオンズリーグのホーム開催時を含む）の2018年度総入場者数は、10,595,742人（前年比 -193,365人）

# 2-10. 1試合当たりの平均入場者数(リーグ戦のみ)の推移



- ・ J1では181人、J2では79人増加し、J3では122人減少した結果、J1・J2・J3全体の平均入場者数（Jリーグ総合計）は、57人増加している。



- (1) クラブライセンス制度施行前には経営的に不安定なクラブが数多く存在したことから、クラブの経営安定化を主目的として財務基準に債務超過禁止および3期連続赤字禁止というルールが制定された。
- (2) クラブライセンスの施行（2012年）後、赤字クラブ数および債務超過クラブ数は大きく減少し、クラブの経営安定化は進んだ。
- (3) 一方で、現在のクラブの財務状態から鑑みれば、今の財務基準は一部のクラブに過度に保守的な経営判断を行わせる可能性があるとの指摘があがった。
- (4) そのため、経営検討部会クラブライセンス財務基準分科会を発足し、財務基準改定の必要性について議論を行い、理事会の承認を経て、2018年から新ルールが施行された。

## Jリーグクラブライセンス（J1・J2ライセンス）改定の趣旨（J3クラブライセンスは変更なし）

3期以上連続で赤字が発生したとしても、**連続赤字の最終年度における期末純資産残高が当該年度の赤字額の絶対値を上回っている場合は不交付としない**こととする。

### 新改定案のメリット

- ① 内部留保を活用した大規模投資がしやすくなる
- ② 純資産に余裕がある状況下では、予測出来ない費用を意識した緊縮予算を組む必要が無くなる
- ③ 少額赤字を気にせず、収支均衡を目指しやすくなる

## 3 - 2. 3期連続赤字禁止ルールの改定について

再掲



### 【Jリーグクラブライセンス交付規則運用細則】

#### 改訂前（2017年申請）

規則番号： F.01 等級： A

年次財務諸表（監査済み）

（抜粋）

#### 3. 判定

判定は、原則としてライセンス申請者の個別財務諸表で行うものとする。ただし、第3項第2号に該当する場合には、この限りではない。

（中略）

(2)提出された財務諸表に基づいて審査を行い、以下のいずれかに該当する場合は基準F.01を満たさないものとする。

①3期連続で当期純損失を計上した場合

②ライセンスを申請した日の属する事業年度の前年度末日現在、純資産の金額がマイナスである（債務超過である）場合

③ Jリーグからの指摘に基づき、過年度の決算の修正が必要となった場合において、過年度の決算を修正した結果、前2号に示す事態となった場合

（後略）

#### 現行（2019年申請）

規則番号： F.01 等級： A

年次財務諸表（監査済み）

（抜粋）

#### 3. 判定

判定は、原則としてライセンス申請者の個別財務諸表で行うものとする。ただし、第3項第2号に該当する場合には、この限りではない。

（中略）

(2)提出された財務諸表に基づいて審査を行い、以下のいずれかに該当する場合は基準F.01を満たさないものとする。

①3期**以上**連続で当期純損失を計上した場合 **（ただし、ライセンスを申請した日の属する事業年度の前年度末日現在の純資産残高がライセンスを申請した日の属する事業年度の前年度の当期純損失の額の絶対値を上回っている場合は本項目に該当しないものとみなす）**

②ライセンスを申請した日の属する事業年度の前年度末日現在、純資産の金額がマイナスである（債務超過である）場合

③ Jリーグからの指摘に基づき、過年度の決算の修正が必要となった場合において、過年度の決算を修正した結果、前2号に示す事態となった場合

（後略）

※上記は、2018年より既に運用が開始されております。

# 4 - 1. J1・J2ライセンスとJ3ライセンスの違い

再掲



	J1・J2ライセンス	J3ライセンス	備考
申請頻度	年次（毎年翌シーズンのライセンスを申請）		
ライセンス基準	①競技、②施設、③人事体制・組織運営、④法務、⑤財務の5基準 ※基準に紐づく審査項目は原則同じだが、J3ライセンスとJ1・J2ライセンスで求められる水準が異なるものもある		[水準が異なる項目の例] ・独立会計監査人による監査義務 ・ホームスタジアムの設備 ・設置すべき指導者の資格
判定機関	外部専門家による第三者機関 (クラブライセンス交付 第一審機関「FIBJ」)	Jリーグ理事会	J1・J2ライセンスはAFCより導入を義務付けられた制度であるが、J3ライセンスは日本独自の制度
規程	Jリーグクラブライセンス交付規則・ 交付規則運用細則	J3クラブライセンス交付規則	

# 4 - 2. 「赤字」と「債務超過」の違い

再掲



## 1. 損益総括

(百万円)

	金額
営業収益	791
スポンサー収入	418
入場料収入	131
Jリーグ配分金	96
アカデミー関連収入	29
物販収入	45
その他収入	72
営業費用	907
チーム人件費	338
試合関連経費	92
トップチーム運営経費	143
アカデミー運営経費	30
女子チーム運営経費	0
物販関連費	31
販売費および一般管理費	273
営業利益	▲ 116
経常利益	▲ 115
税引前当期利益	▲ 115
法人税および住民税等	1
当期純利益 (損失)	▲ 116

## 2. 貸借対照表

(百万円)

	金額
流動資産	119
固定資産	40
資産の部 合計	159
流動負債	211
固定負債	4
負債の部 合計	215
資本金	285
資本剰余金	85
利益剰余金	▲ 426
資本 (純資産) の部 合計	▲ 56

債務超過を解消する = (純資産を0以上にする) 方法

- (1) 資本金を増やす  
→ 増資の実行 (資本金を出す人を募る)
- (2) 利益剰余金を増やす (マイナスを消す)  
→ 当期純利益を出す
  - 費用を削減して利益を出す  
(チーム人件費、試合運営費、etc.)
  - 収入を増やして利益を出す  
(広告料、入場料、etc.)

したがって左のクラブの場合、債務超過解消には、

- ① 5,600万円以上の増資
- ② 5,600万円以上の当期純利益
- ③ 増資と利益の合計が5,600万円以上

のいずれかの手段を取らなければならない。

出資や増資等で得た資金はここにカウント

→これまでの黒字 (赤字) の累積

→ここがマイナスなら「債務超過」